

# あなたを胃がんから守りたい

まずは、ピロリ菌の感染を知ることから..



(ブラックジャックによろしく 住藤尚晴)



(ブラックジャックによろしく 住藤尚晴)

- ピロリ菌は日本人の胃がんの主な原因です
- ピロリ菌退治で胃がんの危険を下げ、定期的なチェックで胃がん死を防ぐことができます
- 今を生きる私たちが、未来のあなたと家族にできること、さあ！



(ブラックジャックによろしく 住藤尚晴)

ヘリコバクター・ピロリ菌陽性・萎縮性胃炎と言われたら

—今を生きる私たちが未来のあなたとあなたのご家族にできること—

## ピロリ菌と胃十二指腸潰瘍・胃がん

かつて胃十二指腸潰瘍・胃がんは、日本の国民病とも言われていました。しかし、長い間その原因はわからないままでした。1982年に慢性胃炎をもつ患者さんの胃から「らせん状」の形態をもった細菌が発見されました。その後この菌はヘリコバクター・ピロリ菌と命名され、萎縮性胃炎や胃潰瘍、胃がんの原因となることが明らかにされました。当時、世界的には約50%、日本人の約80%にこの菌が感染していて、この感染率の高さが胃十二指腸潰瘍や胃がんが多いことの理由と考えられています。

## ピロリ菌はどこから？

海外では井戸水からピロリ菌が検出され、感染源とされた報告もあります。一方で、ピロリ菌の遺伝子解析から両親や祖父母と子の間に関連性が認められることから、ヒトからヒトへの経口感染が大きな要因とされています。微生物への防御機構が成熟していない幼児期、それも5歳未満でピロリ菌を経口的に摂取することで感染することが大半と考えられています。一度、ピロリ菌に感染すると多くは慢性的に感染が持続し、慢性胃炎・慢性萎縮性胃炎となり、40歳を過ぎた頃から胃がんの発見頻度は徐々に高まってゆきます。

## ピロリ菌の診断は？

ピロリ菌は、胃から組織を採って培養したり、ピロリ菌に含まれる酵素の作用を確認したり、血液や尿中の抗体、糞便中の抗原の有無で診断します。最近では検診の内視鏡などで慢性胃炎を指摘され、血液でピロリ菌抗体が陽性と診断されることが多くなっています。最も精度の高い診断法として、お薬を服用する前後で息（呼気）を採取して診断する「尿素呼気試験」も行われます。また大人ではピロリ菌の診断と共に、内視鏡検査により胃がんがないことを確認しておくことも大切です。

山梨県による助成（令和3年3月31日まで）

## ピロリ菌の治療は？

2000年にピロリ菌陽性の胃十二指腸潰瘍に対して3種類の薬の組み合わせによる除菌治療が保険適用となりました。その後、胃がんの治療後、胃マルトリンパ腫、内視鏡で胃炎が確認された慢性胃炎にも保険適用が拡大されています。通常、抗生物質2種類と胃酸を抑える薬を7日間服用すると約80%でピロリ菌を除菌できます。この治療が無効だった場合は、薬の組み合わせを変えて治療することで、全体の約95%で除菌することができます。お薬は以前からしばしば使われているもので、特別なものではありません。

副作用としては、蕁麻疹、下痢、味覚障害などで大半は軽症のものです。極めてまれに強いアレルギー反応を起こすことがあり、以前にお薬に対するアレルギーがある方は事前にそのことを伝えて、相談してください。

## 今を生きる私たちが未来のあなたとあなたのご家族にできること

ピロリ菌感染は通常無症状で経過します。胃がんの予防と家族（主に幼児）への感染を防ぐためには、より若い時期でのピロリ菌除菌が望ましいと考えられています。ピロリ菌除菌ですべての胃がんを予防できるわけではありませんが、まずピロリ菌感染を知って除菌することで胃がんのリスクを低下させ、その後定期的に内視鏡で経過観察して早期に胃がんを診断することで胃がん死を防ぐことは可能です。最近の調査では、衛生環境の改善や除菌治療の普及によって、20歳の感染率は20数%まで低下してきています。今を生きる私たちが除菌することは、子や孫の世代の胃がんリスクをも大きく低下させることにもつながります。ご相談ください。